

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目 次

1 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	p.2
ア 西九州大学大学院の現状把握・分析	p.2
イ 地域・社会的動向等の現状把握	p.3
ウ 臨床心理学専攻設置の趣旨目的、教育内容、定員設定等	p.4
エ 学生確保の見通し	p.5
A. 学生確保の見通しと調査結果	
B. 新設専攻の分野の動向	
C. 競合校の状況	
D. 既設学部 of 学生確保の状況	
オ 学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果	p.8
2 人材需要の動向等社会の要請	p.10
①人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	p.10
②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	p.10

## 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

臨床心理学専攻博士後期課程における学生確保の見通し及び申請者としての取組状況は以下の通りである。

### ア 西九州大学大学院の現状把握・分析

西九州大学は、佐賀県内唯一の私立4年制大学として、建学の精神である「健康と福祉の探究」を目指して教育研究を深化・発展させるため、社会福祉、精神保健福祉、介護福祉、臨床心理、教育・保育、管理栄養、理学療法、作業療法、看護の各分野において求められている専門職業人の養成に努めてきた。本学は、建学以来のテーマである「健康と福祉の探求」のさらなる充実を図るために、平成11年4月に大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻修士課程を開設し、平成14年4月には健康福祉学研究科に、「臨床心理コース」が開設されるとともに、臨床心理実習施設としての附属臨床心理相談センターが併設された。その後、さらに「臨床心理コース」の経緯と実情を踏まえて、地域からの要請に対応する「心の相談・支援の専門家」を養成するための基盤強化を図るため、平成26年4月に大学院「臨床心理学専攻」が開設され、その寄って立つ学問的立場の明確化を図ってきた。

近年の我が国においては、格差、排除、貧困、虐待、不登校、障害、体力の低下、傷病の増加など多様な生活・健康・教育における様々な歪みが生じており、これらの様々な生活課題に対応するため、本学は高度専門職人の育成のために大学院の整備を行ってきた。その整備の一部として、平成26年に専攻より分離させた臨床心理学専攻修士課程がある。臨床心理学専攻修士課程では精神疾患、発達障害、不登校・いじめ、虐待、就労、災害などの「心の健康」に関する諸課題に対応できる心の専門家を育成してきた。

しかしながら上記に述べた諸課題は、近年ますます多様化、複合化し、さらには急速な社会変動に加え、感染症や災害に対する支援などの新しい課題が国際的にも発生し、様々な領域の事例や困難度の高い事例への対応が求められている。また、心理的な適応・発達上の課題や支援方法の開発などに対応できる研究能力の養成も必要である。これらに応えるために今後、さらなる高度な心理臨床能力と臨床心理学研究能力を統合する場が必要不可欠であると考えられる。ともに、次世代指導者の養成は急務である。

これに応えるために高度で専門的な能力を有する人材の育成が必要であると考える。

#### イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

高度情報化と少子高齢化を伴う社会の到来とともに、社会的、心理的環境が急激に変化し、さらには世界中がコロナ禍のパンデミック騒動の中で身体的、精神的、社会的にも良好な状態とは言えず、増大する社会的混乱を受けて、深刻な内面の危機を迎えている。児童虐待、子どもによる家庭内暴力、夫による妻に対する暴力(DV)、引きこもりなどの家庭の問題、いじめ、校内暴力、不登校、学級崩壊など学校現場での問題、入社拒否や職場の不適応、あるいは自殺などの職業現場での問題は、その具体的な現れといえる。

臨床心理学専攻修士課程では、このようなストレスの多い現代社会における教育、医療、福祉、司法・矯正、産業分野において、「心の相談・支援の専門家」として高い倫理観と豊かな人間理解と支援のための実践力、さらに高度な学識と研究能力を備えた臨床心理学の専門家を養成することを教育上の目的として地域に根差した実践を行ってきた。

加えて東日本大震災等の自然災害にもみられるように、思いもかけず突然社会環境が変化するという状況の中で健康な生活をめぐる問題は深刻さを増してきている。2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災の後、佐賀県内に避難してきた家族を対象に、同年6月より支援活動「ほっとひろば西九大」を開催し、2021年(令和3年)3月までの10年間、被災者の方々の心の支援を行ってきた。大学院生・大学院修了生・学部学生・教員がスタッフとなり、大人には情報交換や悩みや葛藤を打ち明ける場、子どもたちには、遊びを通して心を癒せる場を提供してきた。佐賀県からは、このような臨床心理専攻による相談実践の活動は、専門知識を活かした社会貢献活動として高く評価されている。

学内実習施設としても位置付けられている臨床心理相談室は、地域から来談される臨床ケースに対する臨床心理面接や遊戯面接、集団心理面接あるいは心理検査等の臨床活動を継続して展開し、地域に貢献している。来談ケースの年齢は、特に小学生が多い傾向にあるが、ここ数年の動向として成人の来談の増加と、就学前の子どもに関する育児・発達相談が急増している。また相談内容をみると、不登校や心身症、学校や職場での不適

応行動、抑うつ傾向、育児・発達相談に関するものといった、多種多様な相談があげられ、あらゆる事例で対応可能な心の専門家の養成はますます高まっていると言える。

## ウ 臨床心理学専攻博士後期課程設置の趣旨目的、教育内容、定員設定等

### (1) 臨床心理学専攻がどのように貢献できるか

臨床心理学専攻修士課程においては、教育、医療、福祉、司法・矯正、産業分野において、「心の相談・支援の専門家」として高度な学識と研究能力を備えた臨床心理学の専門家を輩出し地域に根差した実践を継続している。一方で、社会環境が大きく変化していく中、多様化・複雑化している臨床心理学について、既設の専攻での教育・研究を踏襲しながらも、より専門的な研究養成施設へと再編することで、質の高い研究者および心理臨床家を養成するという社会的ニーズに対応できると思われる。さらに、本臨床心理学専攻博士後期課程では、無意識領域をも視野に入れた本格的な心理療法実践ができる人材を養成し、また、実践において医療、福祉、教育、司法、産業という多方面で応用できるような心の深さと広さをカバーできる人材としてのフラッシュアップの場として、博士後期課程も必要であると判断し、申請するに至った。

### (2) 定員充足の理由

臨床心理学専攻博士後期課程の定員は2名である。本専攻では次のような入学者を想定している。

- ① 本学臨床心理学専攻修士課程を修了する院生
- ② 他大学の臨床心理学系の大学院を修了する院生
- ③ 大学、短期大学、専門学校等に在籍する教員
- ④ 医療・教育・福祉施設の現任職員
- ⑤ 官公庁等で心理行政に従事する現任職員
- ⑥ 研究所・研究施設の職員

臨床心理学専攻博士後期課程は、「臨床心理学」の分野における高度に専門的な職業に従事するのに必要な、自立的な研究能力に優れ、またその基礎となる豊かな学識を有する人材の養成を主な目的とするところから、実践的な応用研究に取り組みたいと願う

地域の人々に対して広く門戸を開くものである。大学院修士課程修了後に直接進学する大学院生を1名程度、社会人1~2名、合計2名程度の入学を見込んでいる。現在の修士課程在籍者数は、1年生6名(学部からの進学者)、2年生5名(内社会人1名)で、博士後期課程を設置した場合には、定員2名の充足は十分に見込まれると考える。

### (3) 今、臨床心理学専攻の設置が必要な理由

本専攻の開設は、修士課程において展開してきた地域からの要請に対応する「心の相談・支援の専門家」をさらに高度化し、社会に寄与する人材を養成するために、臨床心理研究の方向性や社会的要請などを十分に勘案して、教育課程を構想した。近年の社会状況を考えたとき、臨床心理学分野の人材を育成するための教育研究分野の人材育成も急務であり、九州圏内に設置されるという視点から鑑みても本学の臨床心理学分野の博士後期課程の設置は大きな利益と考える。

### (4) 臨床心理学専攻の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

学生納付金を設定する際には、できる限り学生負担の軽減をしつつ、教育研究の充実と研究条件および環境を維持・継続するために必要な金額を設定している。

心理臨床学博士後期課程は、「臨床心理学」の分野における高度で専門的な職業に従事するために必要となる、自ら学び、自ら研究し、自ら課題を解決する力を有する、人材の育成を目的としている。そのために、医療・教育・福祉・産業等の分野において、自ら課題を見出して、自立的に解決のための研究に取り組める研究者としての基礎能力の修得を目指す。科学的知見(エビデンス)を集め、情報を整理して必要な知識を積み重ね、自らエビデンスを創造し、その情報を発信する、この一連の能力の修得を主な教育目標としていることから、実験・実習にかかる費用についても学生納付金として設定する。

今後、近隣の臨床心理系大学院を参考に、学生の納付状況を踏まえ検討したい。

## エ 学生確保の見通し

### A. 学生確保の見通しの調査結果

本学臨床心理学修士課程を修了した者は、現在 101 名おり、医療、教育、福祉等の領域で実践及び研究活動を行っている。また、大学院附属臨床相談センターで開催するケースカンファレンス(2007 年～2021 年)においても 58 名の修了生が事例提供をして、心理臨床に関する自己研鑽に努めている。

博士号取得に関するアンケート調査を社会人(修了生 101 名)と臨床心理学専攻修士課程の学生 11 名、心理カウンセリング学科 1 年生、2 年生、3 年生、4 年生を対象として実施している(資料1)。方法は、Google form による web 調査である。

結果は、社会人では、「問 4 仕事上、博士号の学位取得の必要性を感じていますか」の項目では、<必要だと感じている><どちらかという必要だと思う>の回答が合せて 32%であった。「問 5 博士号の学位取得を希望しますか」の項目では、<希望している><これから学位取得について考えてみたい>の回答が、合せて 48%であった。「問 8 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進路先として検討しますか」の項目では、<進学先として検討したい>の回答が 28%であった。「問 7 博士号取得に対する興味」の項目では、<必要だと感じている><どちらかという必要だ>の回答が、83%であった。「問 12 将来、博士号を取得したいですか」の項目では、<希望している><これから博士号取得について考えてみたい>の回答が 68%であった。「問 8 本学を進学先として考えるか」の項目では、<進学先として検討したい>の回答が 28%であった。

大学院生・大学学部生では、「問 4 博士号取得に興味はありますか」の項目では、<必要だと感じている><どちらかという必要だ>の回答が、83%であった。「問 5 将来、博士号の学位取得を希望したいですか」との項目では、<希望している><これから学位取得について考えてみたい>の回答が、合せて 68%であった。「問 8 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進路先として検討しますか」との項目では、<進学先として検討したい>の回答が 39%であった。

上記の回答からもわかるように、多くの社会人、大学院生・大学学部生が博士号取得に興味を抱いており、仕事上でも必要性を感じていることがわかる。さらに、西九州大学大学院を進学先として検討するとした回答も多数みられたことから、一定のニーズが存在することが想定される(図1～図15)。

## B.臨床心理学専攻博士後期課程の動向

現在、中国、四国、九州地区で公認心理師国家試験受験資格を目指せる大学は 21 校である。さらに、公認心理師法第7条第 2 号に規定する認定施設(研究施設)が全国に 9 か所(九州 1 か所)ある。近年の当該分野における臨床心理学研究の方向性や社会的要請などを十分に勘案して、大学、研究機関での指導者としての活躍が期待できる。

## C.競合校の状況

現在、九州地区には 5 校の博士後期課程が設置されている。その中でも、本専攻は、学部から博士課程まで一貫した心理臨床家養成のための大学として位置づけ、臨床心理学に特化した九州でも数少ない博士後期課程である。専門的心理臨床実践と臨床心理学ができ、かつその統合として、次世代の臨床心理領域の指導者、および教育者となりえる人材の育成を目指している。

## D.既設学部等の学生確保の状況

本学臨床心理学専攻(修士課程)の令和 4 年度の收容定員充足率は 1.60 であり、臨床心理学に関する関心度が高いことが伺える。また、心理カウンセリング学科の收容定員充足率も 1.16 であり、少子高齢化、核家族化、生活スタイルや価値観の多様化により、心の問題に対して対する社会的ニーズは高まっていると言える。

一方で、本学のリハビリテーション学部リハビリテーション学科(理学療法学専攻:定員 40 名、作業療法学専攻:定員 40 名)は、平成 19(2007)年に開設し本年で 16 年目を迎え、これまで 800 名以上の理学療法士(PT)、作業療法士(OT)を輩出した。本学の OT において平成 30~令和 4 年度の 5 年間の平均入学定員超過率は 0.60 に落ち込み、收容定員充足率においては、平成 30 年度は 0.92、令和元年度は 0.83 と年々低下しており、令和 4 年度は 0.56 に落ち込んだ。しかしながらこの現象は本学だけではなく、全国 200 校の OT 養成校も同様である。

本学の健康福祉学部社会福祉学科においては平成 30 年~令和 4 年度の收容定員充

足率は 0.6 前後を推移しており、令和4年度は 0.50 まで落ち込み、その対策に注力している状況である。志願者減少の背景として、近年の福祉現場に対する偏った報道によって福祉の仕事は「3K(きつい、汚い、危険)」というイメージが定着したことで若者の福祉離れが進んだことが大きい。社会福祉系学科の志願者減少は全国の大学で進み、募集定員の削減あるいは募集停止に踏み切った大学も多い。とくに、本学の位置する九州圏では、社会福祉士養成校協会に加盟している養成校が計 32 校もあり、少ない志願者を大学間で奪い合う状況となっている。

#### オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

現在の生活支援科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)は設置以来常時定員の 2 倍を超える志願者があり、現在に至っている。本修士課程の母体となる学部課程の心理カウンセリング学科の卒業生からの志願だけでなく、学外から学校教育、社会福祉、医療の現場で心理臨床に従事しているものからの志願も少なくない。学部学生からと学外の心理臨床の従事者からの志願の割合は半々といったところである。これらの志願者は臨床心理士、公認心理師の資格取得が第 1 の志願理由である。この理由と並んで本専攻の特徴が志願の誘因となっていることを窺わせる事例もかなりの程度見受けられる。特に「芸術療法」の実践と研究の基本を習得することを志願の理由とする場合が恒常的に見られた。これからの博士課程の志願者を考えると、資格取得は前期課程志願の誘因となるも、後期課程のそれにはならない。やはり「研究の深化」が志願の主な誘因になると思われる。博士課程後期に志願が期待できる層に、この「研究の深化」が一定の誘因となる活動を展開する必要がある。これまでの心理臨床センター紀要をより高度化し、大学院生の体験事例の紹介の水準から、心理臨床実践そのものの洗練とこの実践結果を基に新たな創造的観点からの解釈を加えた事例研究を展開すべきことと考えている。この展開と合わせて、心理臨床実践者が参加する学会をこれまで以上に積極的に誘致し、学会活動の実際を通じて本課程の研究の広報を広範化させ、研究そのものを深化させる試みも必要と考える。

また、本学臨床心理学専攻(修士課程)の収容定員充足率は 1.60 であり、本学の同課程の活性化が保たれている。また、学部課程の心理カウンセリング学科の収容定員充足率も



1.16 であり、適度の学生数で充実した教育が展開できている。これらは本学の臨床心理学に関する、修士、学部両課程の教育が社会の一定の評価を得ていることを窺わせるものと言える。こうした社会的評価は、学生確保の基盤となるものである。これまでの教育をさらに充実させていくことは言うまでもないことであり、このことが安定した「学生確保」につながると考える。

学内関係部署との密接な連携のもとに、大学院進学相談会をはじめとした組織的な広報活動に取り組む。また、学生募集とともに社会的認知を向上させるためにも、具体的な学びと将来像の可能性についての広報活動を行う。具体的には、パンフレットを作成し、関連の学会や人的ネットワークを活用して、生活支援科学研究科臨床心理学専攻の教育理念や人材育成の目的等について、積極的に進学を検討する可能性の高い近隣の大学教員、教育機関、医療機関勤務の臨床心理士、公認心理師、研究機関等に訴求する。あわせて、大学案内パンフレットや大学の入試サイトへの掲載、ホームページのさらなる充実を図る。

先述したように、本学臨床心理学専攻(修士課程)の収容定員充足率は 1.60 であり、臨床心理学に関する関心度が高いことが伺える。また、心理カウンセリング学科の収容定員充足率も 1.16 であり、少子高齢化、核家族化、生活スタイルや価値観の多様化により、心の問題に対して対する社会的ニーズは高まっていると言える。

既設のリハビリテーション学部リハビリテーション学科(理学療法学専攻:定員 40 名、作業療法学専攻:定員 40 名)において、令和 4 年度の収容定員充足率が 0.56 に落ち込んだ要因として考えられることは、作業療法という名称からくる偏見である。臨床ではPTもOTも業務内容に変わりがないが、受験生はリハビリテーションと言えば理学療法士を想像し、作業療法士は作業をする人たちと思い込んでいる。そのために本学で実施しているオープンキャンパスや高校訪問では受験生に理学療法士・作業療法士の正しい概念をアピールしている。今後は、PT出身の国会議員や日本作業療法士協会に働きかけ、PT、OTの資格名称の変更「リハビリテーションセラピスト」とすることを考えている。

既設学部の社会福祉学科では定員確保に向けた対策として、(1) カリキュラムを改革し、「子ども・教育系」「医療・精神保健系」「生活支援系」「地域支援系」として履修モデルを提示し、大学での学び卒業後の職業や「しごと」との関連性を強める内容とした。(2) 演習や

臨床場面を取り入れたプログラムを導入したオープンキャンパスやリニューアルした大学HPとSNSを用いた広報活動の強化 (3) 佐賀県社会福祉協議会や佐賀県高等学校教育研究会福祉部会との共催事業を進めるなど地域との連携強化 (4) 多様な福祉分野の第一線で活躍している5千名を超える卒業生の人的資産を生かした就職支援 (5) 海外からの短期・長期の留学生受入れの強化、などを強力に進めている。少子高齢化、核家族化、生活スタイルや価値観の多様化により、福祉に対する社会的ニーズは高まっている。本学社会福祉学科は、保健・医療・福祉関連の他学科と連携し、これまでのイメージを変えるような魅力ある社会福祉が学べる学部学科の再構成を検討し、定員充足を目指している。

## 2 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本専攻(臨床心理学博士後期課程)では、基盤的能力、専門的能力、創造力の3つの能力を身に付けることで「心の健康」と「心の相談・支援」に関する諸問題に取り組むことが出来る高い倫理観を持つ高度な研究者・専門職業人を養成することを目的としている。本専攻が養成する具体的な人物像は、大学、専門学校、研究機関の教育・研究者、医療機関の指導的心理臨床実践家、福祉施設の指導的心理臨床実践家、教育施設の指導的心理臨床実践家である。

### ②上記①が社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学「臨床心理学専攻」の基本理念は、人間が真に幸福な人生を送れるために生活支援学の視点から、特に「心の健康」に関する諸課題に取り組むことが出来る高度な専門的職業人を養成することである。「臨床心理学専攻」では、ストレスの多い現代社会における教育、医療、福祉、司法・矯正、産業分野において、「心の相談・支援の専門家」として高い倫理観と豊かな人間理解と支援のための実践力、さらに高度な学識と研究能力を備えた臨床心理学の専門家を養成することが教育上の目的として地域に根差した実践を行ってきた。

今回の「臨床心理学専攻」博士後期課程の開設は、修士課程において展開してきた地域からの要請に対応する「心の相談・支援の専門家」をさらに高度化し、社会に寄与する人材を養成するために、修士課程との継続性と専門性を考慮しつつ、近年の当該分野における臨床心理研究の方向性や社会的要請、などを十分に勘案して、教育課程を構想したものである。本専攻は臨床心理学に特化した九州でも数少ない博士後期課程であり、心理学関連領域における自立した研究者と高度専門職業人の育成を共に目的としている。すなわち、臨床心理学の分野における基礎的・先駆的な学術研究を推進可能な優れた研究者の養成を基本的な役割とするとともに、心理学に関する特定の職業等に必要な高度の専門的知識と能力の育成を目指す。また、「大学教員」をはじめとする心理学の研究者のほか、とりわけ近年では、一般企業の研究所や商品開発の部署などで心理学の専門家が求められている。さらに、従来から心理学の専門知識が活かせる主要な職域であった医療・教育・司法の分野では、より高度な心理学の知識で問題を解決できる人材が求められている。なかでも医療現場では、医師や看護師とのチーム医療に携われる人材が求められており、今後、職域として有望な分野であると言える。

国内の少子高齢時代が急速に進展している現代社会の諸問題をはじめ、世界情勢や社会構造もますます急激に多様化・複雑化している。そのため、種々の価値観が発生するとともに多種多様なストレスも次々と生じている。そのような背景の中で、本大学院において、各領域における知識・技術を結集して高度専門職業人を育成するとともに、実践の場を拡張することによって、人間を中心とした保健・医療・福祉・健康での諸課題を解決し、人類の永続的な平和と幸福を追求していかなければならない。しかし、医療・福祉・教育・司法・産業等の現場で実践に対応する指導者となる高度専門職業人の数はまだまだ少ない状況にある。

ストレス社会といわれて久しい現代社会において、心理臨床家の需要が、今後ますます高まっていくことが予想されている。また、そのような心理臨床家を養成するための教育者・研究者を養成する施設は非常に少なく、社会からの要請は強い。

本「臨床心理学専攻」博士課程では、多様化・複雑化している臨床心理学について、既設の専攻での教育・研究を踏襲しながらも、より専門的な研究養成施設へと再編することで、

質の高い研究者および心理臨床家を養成するという社会的ニーズに対応できると思われる。

#### 資料

資料 1: 博士学位取得に関するアンケート調査結果

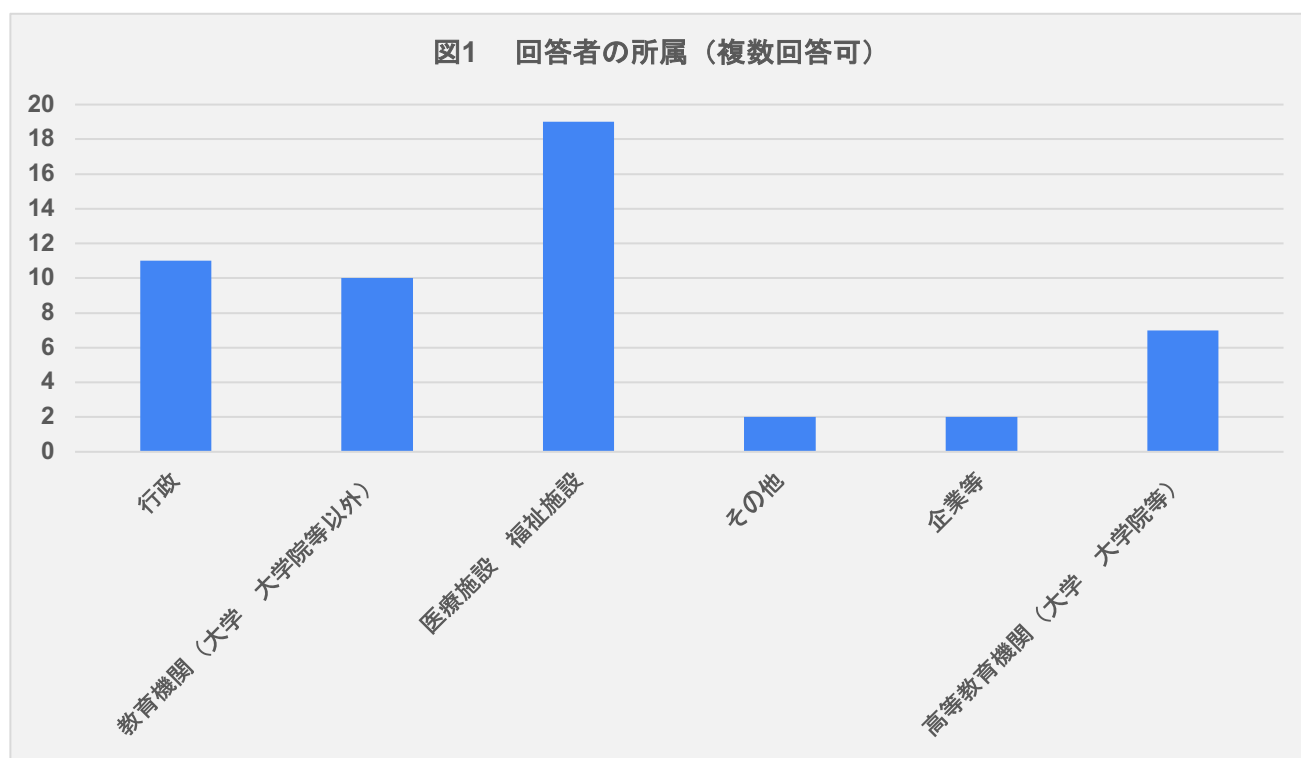
資料 2: 博士学位取得に関するアンケート調査(調査用紙)

## 博士学位取得に関するアンケート調査

## 博士号取得に関するアンケート調査結果（修士修了社会人）

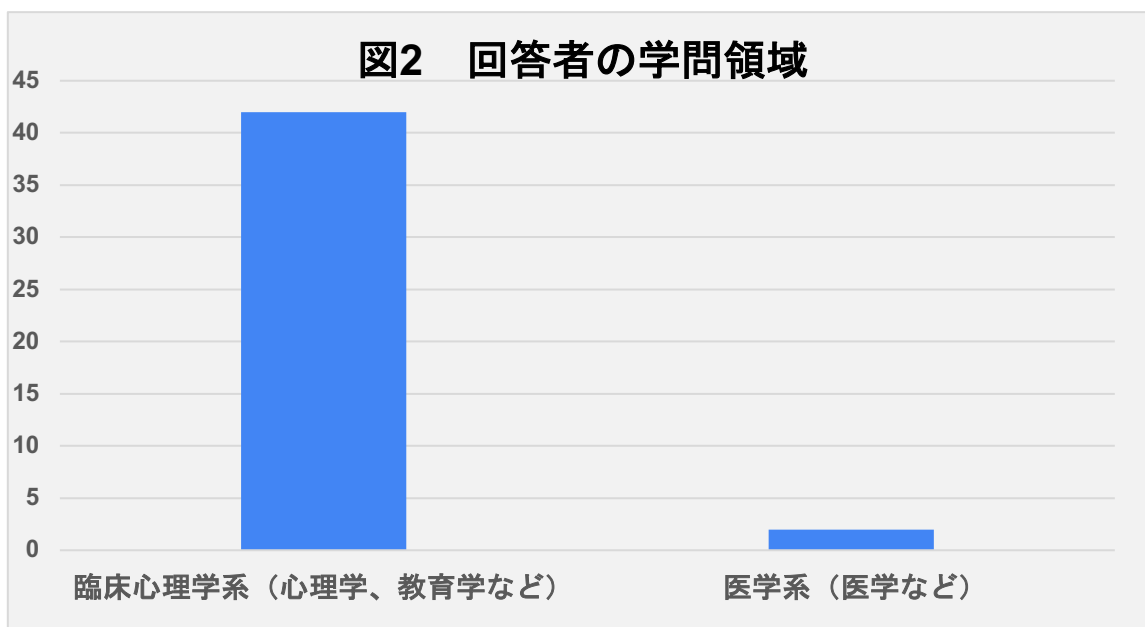
問1 あなたの所属についてお尋ねします。（複数回答可）

行政	11
教育機関(大学・大学院等以外)	10
医療施設・福祉施設	19
その他	2
企業等	2
高等教育機関(大学・大学院等)	7



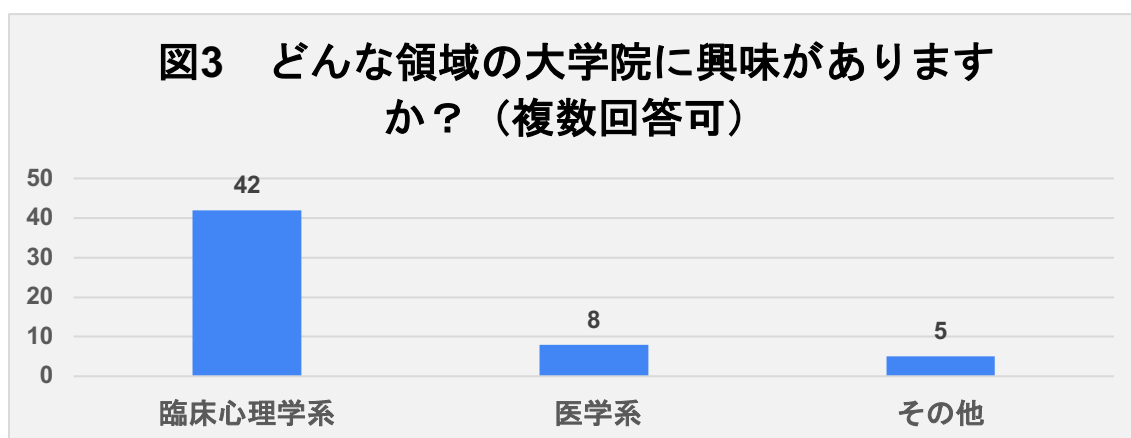
問2 あなたの専門について、主となる学問領域を教えてください。（複数回答可）

臨床心理学系(心理学、教育学など)	42
医学系(医学など)	2



問3 どんな領域の大学院に興味がありますか。（複数回答可）

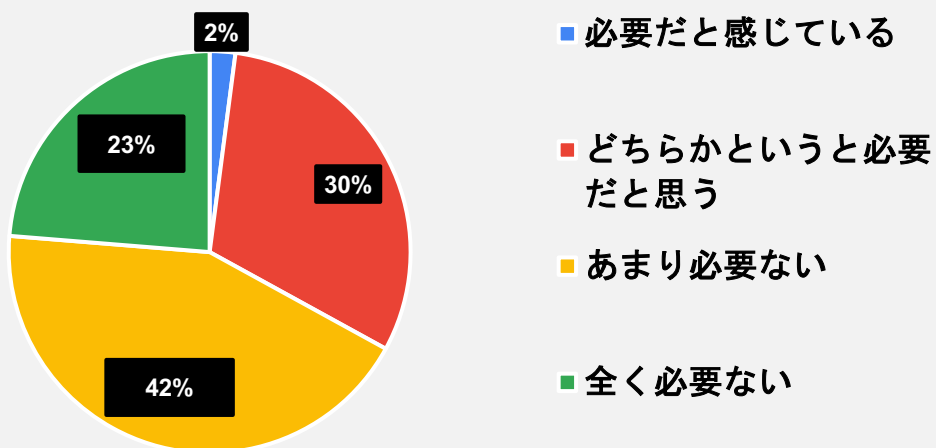
臨床心理学系(心理学、教育学など)	42
医学系(医学など)	8
その他	5



問4 仕事上、博士の学位取得の必要性を感じていますか。

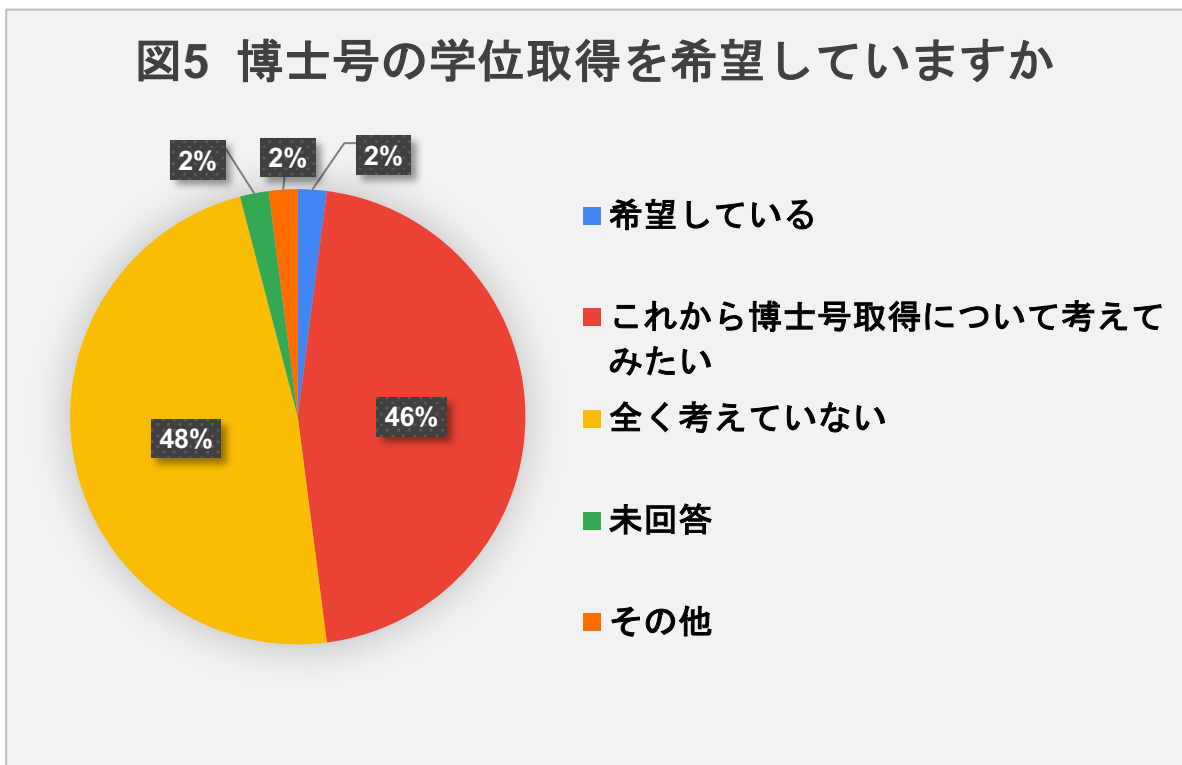
必要だと感じている	1
どちらかという必要だと思う	13
あまり必要ない	17
全く必要ない	10
計	42名

図4 仕事上、博士号の学位取得の必要性を感じていますか



問5 博士号の学位取得を希望していますか。

希望している	1
これから博士号取得について考えてみたい	19
全く考えていない	20
未回答	1
その他	1
計	42名

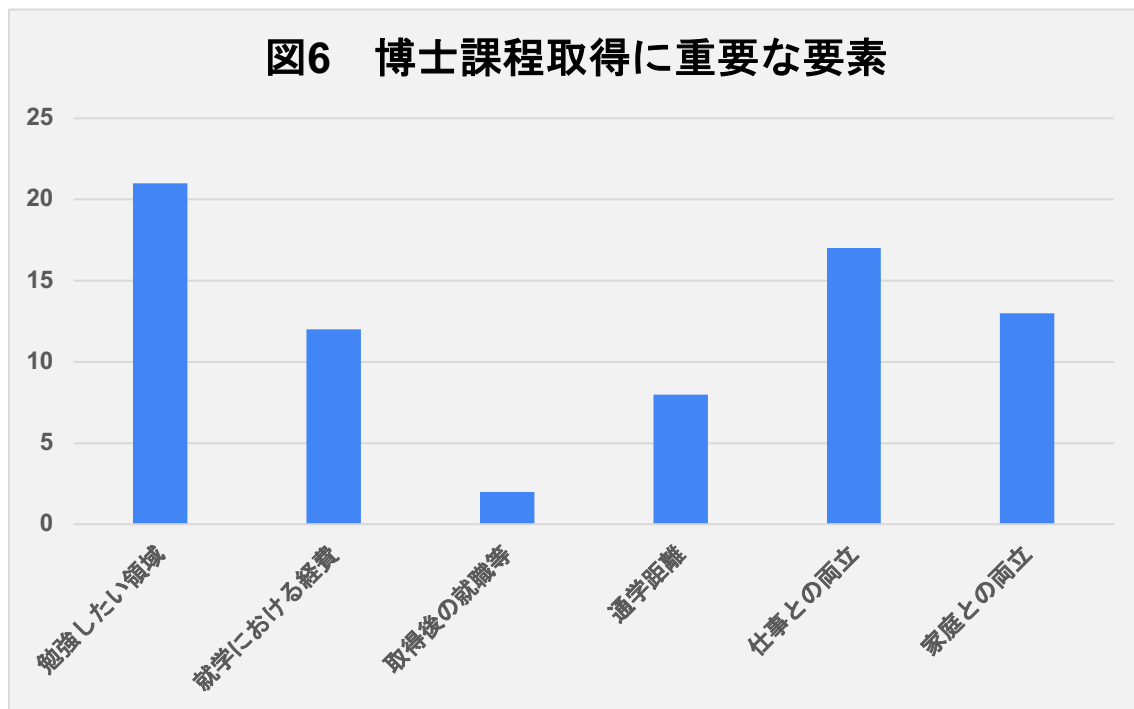




問6 問5で①または②に○をつけた方にお尋ねします。

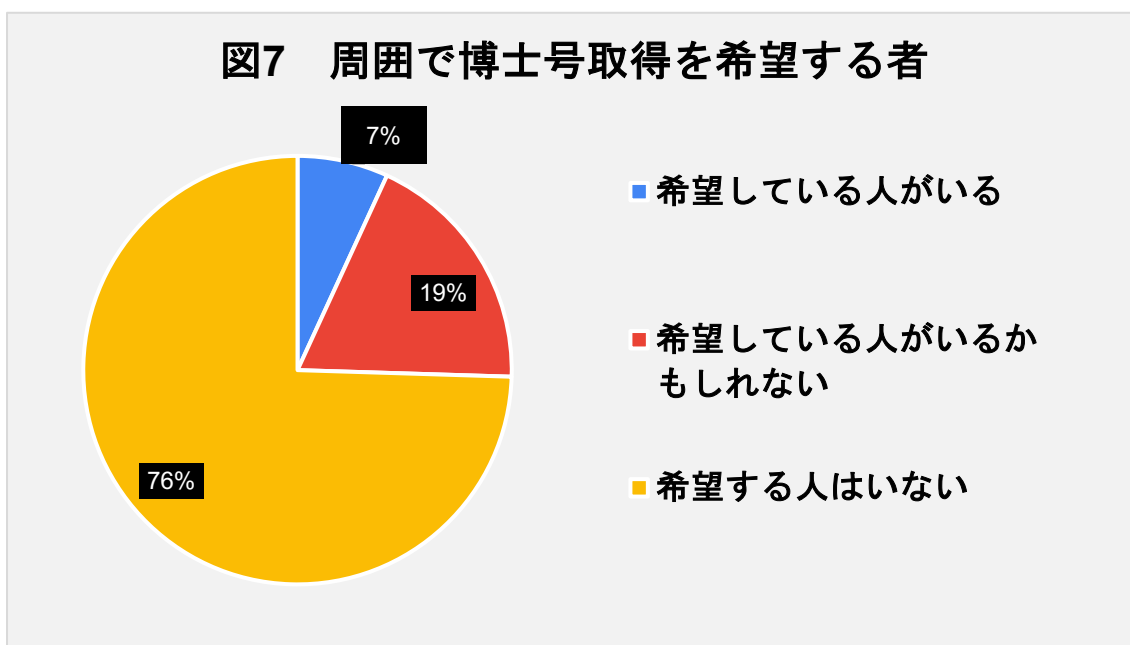
博士号取得にあたり、何が重要となりますか。(複数回答可)

勉強したい領域	21
就学における経費	12
取得後の就職等	2
通学距離	8
仕事との両立	17
家庭との両立	13



問7 あなたの関係している方で、博士号取得を希望されている人はいますか。

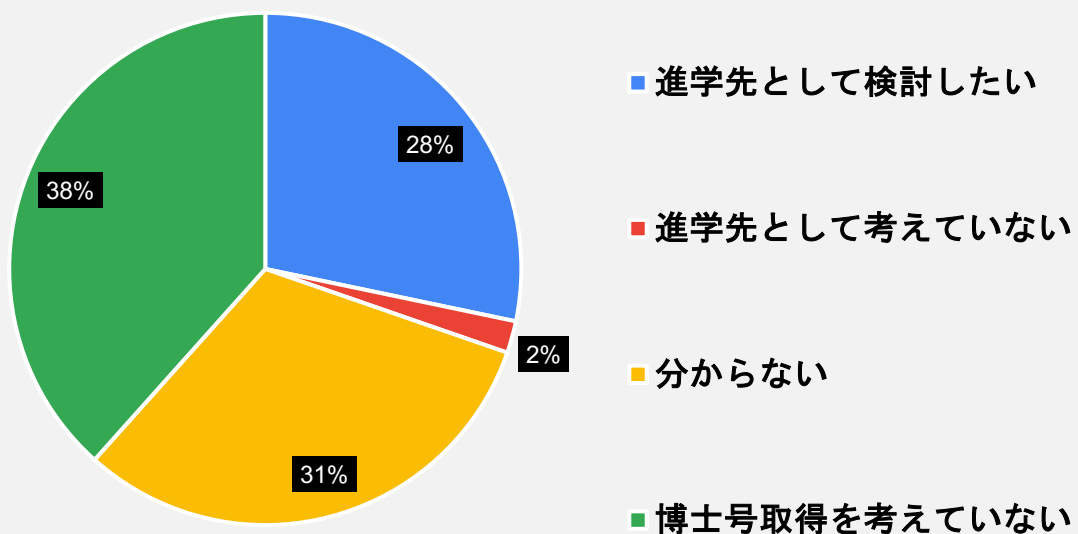
希望している人がいる	3
希望している人がいるかもしれない	8
希望する人はいない	31
計	42名



問8 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進路先として検討しますか

進学先として検討したい	12
進学先として考えていない	1
分からない	13
博士号取得を考えていない	16
計	42名

図8 本学を進学先として考えるか



## 博士号取得に関するアンケート調査結果（大学院生・大学学部生）

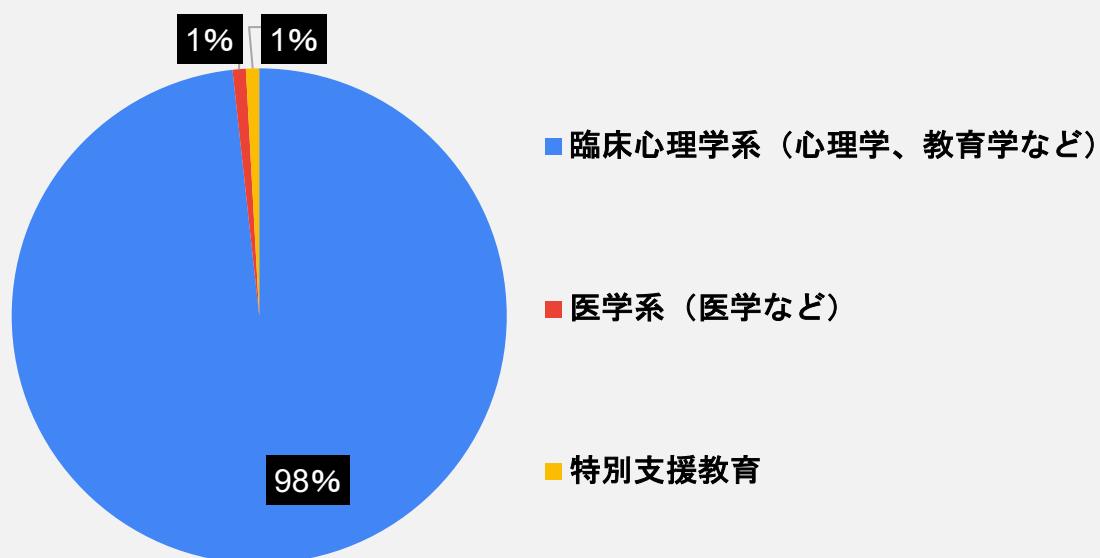
問1 あなたの所属についてお尋ねします。

大学 学部生	106
大学院生	10
計	116名

問3 あなたの学部・専攻について、主となる学問領域を教えてください。

臨床心理学系(心理学、教育学など)	114
医学系(医学など)	1
特別支援教育	1
計	116名

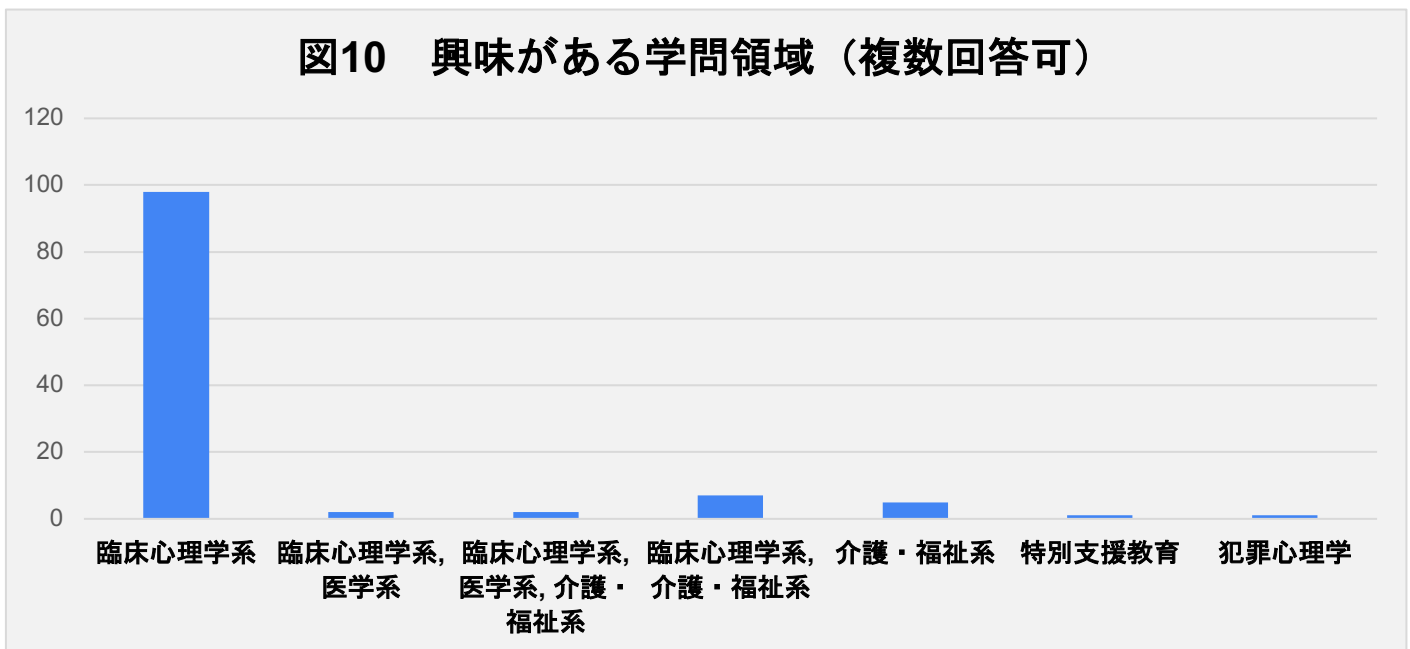
図9 回答者の学問領域



問3 どんな領域の大学院に興味がありますか。(複数回答可)

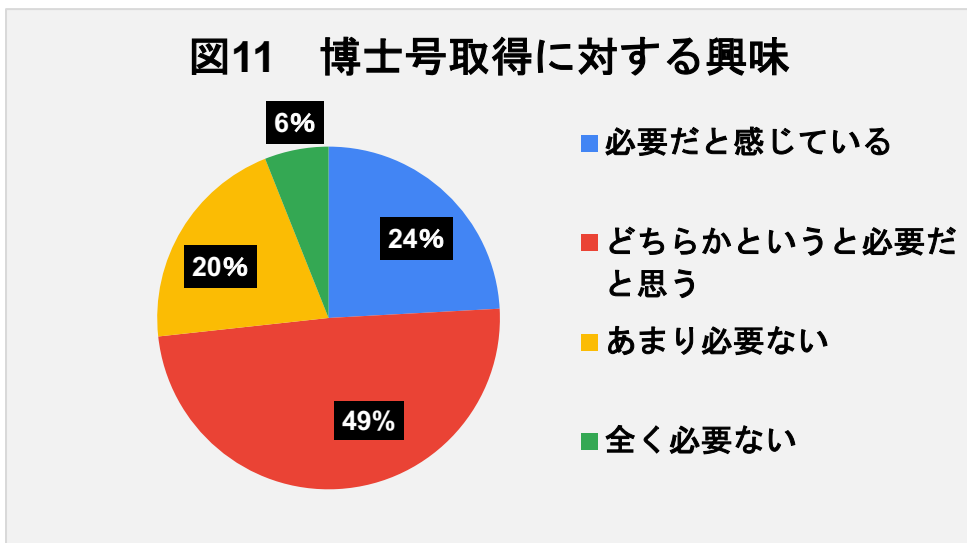
臨床心理学系(心理学、教育学など)	98
臨床心理学系(心理学、教育学など), 医学系(医学など)	2
臨床心理学系(心理学、教育学など), 医学系(医学など), 介護・福祉(看護学含む)系	2
臨床心理学系(心理学、教育学など), 介護・福祉(看護学含む)系	7
介護・福祉(看護学含む)系	5
特別支援教育	1
犯罪心理学	1

図10 興味がある学問領域 (複数回答可)



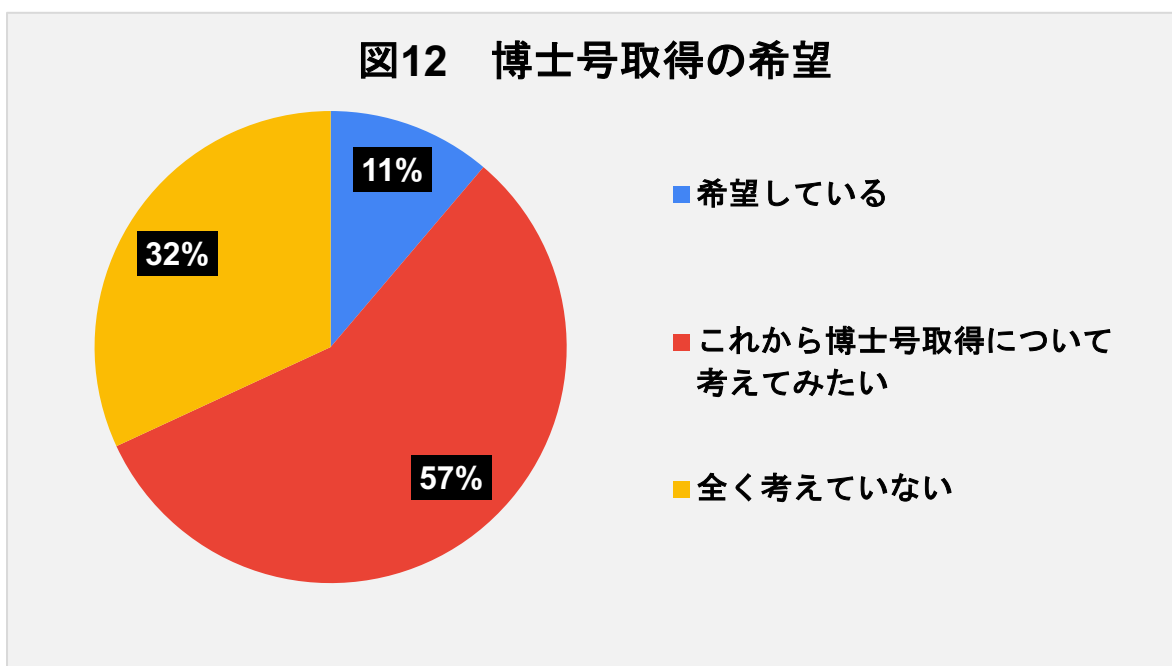
問4 博士号の学位取得に興味はありますか。

必要だと感じている	28
どちらかという必要だと思う	57
あまり必要ない	24
全く必要ない	7
計	116名



問5 将来、博士号を取得したいですか。

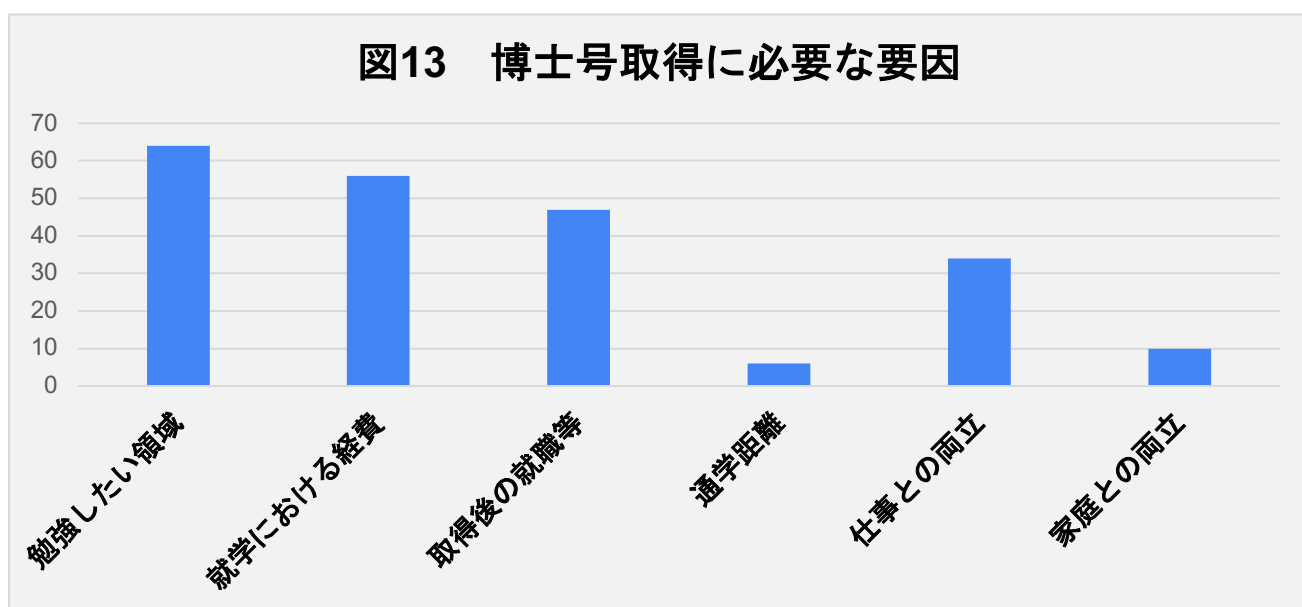
希望している	13
これから博士号取得について考えてみたい	66
全く考えていない	37
計	116名



問6 問5で①または②に○をつけた方へお尋ねします。

博士号取得にあたり、何が重要となりますか。（複数回答可）

勉強したい領域	64
就学における経費	56
取得後の就職等	47
通学距離	6
仕事との両立	34
家庭との両立	10

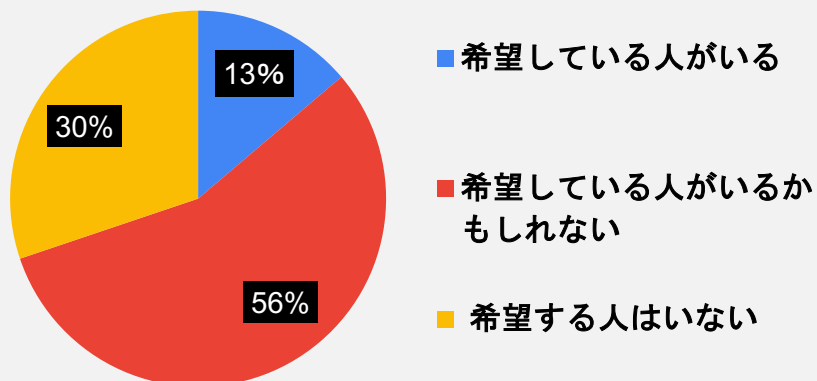




問7 あなたのまわりで、博士号取得を希望されている方はいらっしゃいますか。

希望している人がいる	16
希望している人がいるかもしれない	65
希望する人はいない	35
計	116名

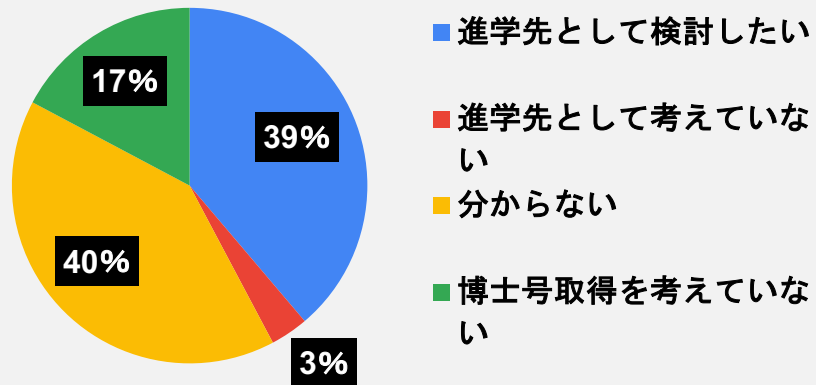
図14 周囲の博士号取得希望者



問 8 西九州大学大学院に博士後期課程が設置された場合、進学先として検討しますか

進学先として検討したい	45
進学先として考えていない	4
分からない	47
博士号取得を考えていない	20
計	116名

図15 本学を進路先として考えるか



資料 2

博士号取得に関するアンケート調査

調査用紙

各 位

西九州大学  
学長 久木野 憲司

「西九州大学大学院」に「臨床心理学専攻博士後期課程」を設置することに  
関するアンケート調査について（ご協力のお願ひ）

本学では、「地域社会で生活する人々の様々な心理的な問題に対応しうる臨床心理学  
研究者及び大学等の高度教育機関において専門性の高い臨床心理学実践の指導を行え  
る心理臨床家」を養成するため、大学院に臨床心理学系の博士課程の設置を構想して  
おります。

そこで、地域における博士号取得の需要について、調査したいと考えています。この  
調査で知り得た情報は、他の目的に使用することは一切ありません。また、無記名式  
で個人の特定はできません。本趣旨をご理解いただき、ご協力下さいますよう、よろ  
しくお願ひ致します。

【大学院の概要】（現在計画中の予定であり、変更することもあります。）

- (1) 開学時期：令和6年4月
- (2) 研究科名称（仮称）：生活支援科学研究科 臨床心理学専攻 博士後期課程
- (3) 取得学位：博士（臨床心理学）
- (4) 修業年限：3年
- (5) 定員：2名（収容定員6名：男女共学）
- (6) 入学料・授業料：入学料200,000円、授業料610,000円
- (7) 設置場所：佐賀県佐賀市神園3-18-15（西九州大学佐賀キャンパス）
- (8) 社会人入学生への配慮：平日夜間と土日の受講のみでほとんどの単位が取得可能

修了生 各位  
関係者 各位

西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科  
学科長 西村 喜文

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、本学の教育活動に一方ならぬご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、現在西九州大学は令和4年度4月から臨床心理学分野における博士後期課程の設置に向けて、文部科学省への申請を含めて準備をしております。

お忙しいところ恐れ入りますが、下記のQRコードもしくは、URLから修了生の皆様、関係者の皆様へアンケートにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大変恐れ入りますが、何卒よろしくようお願い申し上げます。

敬具



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdQ1RPqECtVTHWqq5uZLTiFxsu-NB1ntC7fapxXefZYtSOt6A/viewform>

西九州大学 子ども学部 心理カウンセリング学科  
〒840-0806 佐賀県佐賀市神園3-18-15





## <学生用>

### 博士号取得に関するアンケート

西九州大学大学院では、臨床心理学系の大学院博士後期課程設置を構想しております。そこで、皆さんの博士号取得の需要について、調査したいと考えています。この調査で知り得た情報は、他の目的に使用することは一切ありません。趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

\*博士号とは、大学院の修士2年と博士課程3年を修了し、論文審査に合格した際に得られる学位です。

問1 あなたの所属についてお尋ねします

- ① 大学学部生
- ② 大学院院生
- ③ その他 ( )

問2 あなたの専門について、主となる学問領域を教えてください。

- ① 臨床心理学系 (心理学、教育学など)
- ② 医学系 (医学など)
- ③ その他 ( )

問3 どんな領域の大学院に興味がありますか

- ① 臨床心理学系 (心理学、教育学など)
- ② 医学系 (医学など)
- ③ 介護・福祉 (看護学含む) 系
- ④ その他 ( )

問4 博士号の学位取得に興味はありますか

- ① 興味がある
- ② 少し興味がある
- ③ あまり興味がない
- ④ 全く興味がない

問5 将来、博士号を取得したいですか

- ① 取得を考えている
- ② これから博士号取得について考えてみたい
- ③ 全く考えていない







